

1.2 奈良女子大学編

1.2.1 教育（地方創生を担う人材育成）について

（1）教育プログラムの方針とこれまでの経緯

1) 教育プログラムの方針

本学には、「奈良女子大学的教養」として、いくつかの問いを掲げている。本事業における本学の教育プログラムの考え方として、この問いを具体的に問い直し、「社会的実践に飛び込む」「本物に触れる」「他者と学ぶ、他者から学ぶ、他者を学ぶ」のアプローチを駆使して問いを解決する能力を養い、専門学への学びへとつなげることを目指している。

「地域志向科目」は、上記理念等にもとづき開講している科目であり、社会の未来を切り拓こうとする人材の育成を目指して、地域を知り、地域の課題を発見し、解決策を提案し実践に取り組む科目として開設されている。卒業するまでに1科目以上履修できるよう全学共通科目に多く配置している。

さらに、奈良を知り奈良を好きになる契機とする「地方創生科目」、参加自治体に赴いて地域の課題解決に実践的に取り組む「プロジェクト科目(PBL型教育)」に整理した。また、地域志向科目の多くは県内自治体・県内企業と連携・協働して開講している。

特に、奈良県全体および県庁所在地の奈良市に比較し、県南部の吉野郡において人口減少が顕著に進んでいる。そこで、本事業においては、「過疎の現実を知る」ために、参加自治体である下市町、野迫川村、十津川村にフィールドワーク型学習の拠点となるサテライト施設を設置し、PBL型授業を実施している。

2) これまでの経緯

本学は、各学部及び全学で実施していた「奈良」をテーマにした授業科目について、平成27年の試行実施の実績を踏まえつつ、「地域を知り、地域の課題を発見し、解決策を提案し実践に取り組む」をテーマにした科目の設置について検討した結果、広く知る段階から深く取り組む段階までを網羅できる構成に配慮し、教養教育科目4科目、キャリア教育科目7科目、専門教育科目16科目、合計27科目を、平成28年度から「地域志向科目」として体系化することとし、学生への意識づけを行った。

そのうえで、全学部学生（総定員数1,980名）のうち、関心持つものが受講できる体制とすることを目指し、毎年1,000名程度が受講できる開講科目を準備することが適切と判断し、30科目開講を目標値としている。なお、開講科目の質的充実を目指すため、授業評価アンケート等に基づいた授業内容の見直しを行い、平成30年度をめぐりに新規科目を立ち上げるとともに、平成31年度に、事業参加自治体に赴いて地域の課題解決に実践的に取り組む「プロジェクト科目(PBL型教育)」の見直しを行い、COC+事業終了後の平成32年度以降も県内自治体・県内企業との連携・協働を強化する計画である。

（2）平成29年度教育プログラムの特徴（地域志向科目について）

1) 新規科目の設置「なら学+（プラス）」

地方創生理解科目の「なら学+（プラス）」は、各機関の連携・協力のもと開講する科目で本事業の象徴ともいえる授業である。昨年度、キャリア教育科目として開講した「キャリアデザイン・ゼミナールC(4)：日本一の奈良を知る」を、教養教育科目に格上げし、COC+事業にちなんで、「なら学+（プラス）」と名付けた。本講義では、奈良の魅力に身近に触れながら、課題発見、問題解決、提案力を養い、奈良はもちろんのこと、都会や地元に戻っても活躍できる「生きた知」を身に付けた未来の地域リーダーを育成することを目的としている。

この「なら学+ (プラス)」は、各学部から、1, 2回生を中心に 174 名が受講登録した。各回のテーマは以下の通り。県内企業並びに自治体からのゲストスピーカーによる講義のほか、奈良工業高等専門学校からは工学に関して、奈良県立大学からは観光学に関して、それぞれ講師を派遣いただき、専門的知見の講義を実施した。

なお、学生には、奈良の今を理解した私が考える奈良の未来として、「奈良への提案」と題するレポートを課し、最終回授業として、学生による地域活動報告の他、南都経済研究所から「大学生の視点を地方創生に活かす」とする特別講演をいただいた。

表1 なら学+ (プラス) 講義スケジュール

回	内容	ゲストスピーカー
1	ガイダンス 奈良県の経済基礎知識	
2	観光産業への理解を深め、課題を探る	(株)奈良ロイヤルホテル
3	観光産業のニーズとその課題について学ぶ(1)	奈良県立大学
4・5	女子大学生ワーク&ライフ EXPO (本学体育館にて)	
6	観光産業のニーズとその課題について学ぶ(2)	奈良県立大学
7	伝統産業(靴下)への理解を深め、課題を探る	西垣靴下(株) (大和高田市)
8	参加協働機関(自治体)の取り組み	吉野郡下市町
9	地域社会と技術者	奈良工業高等専門学校
10	伝統産業(林業)への理解を深め、課題を探る	奈良県森林技術センター 西垣林業(株)(桜井市)
11	伝統産業(製薬)への理解を深め、課題を探る	佐藤薬品工業(株) (橿原市)
12	女性の起業(働き方)を考える	Littlemoon 文美月氏
13	地域づくりを考える	(社福)ぷろぼの (奈良市)
14	モノづくりを通じての地方創生	奈良工業高等専門学校
15	学生による地域活動事例報告会 講演:「大学生の視点を地方創生に活かす」	(一般財団法人) 南都経済研究所

<授業の感想>

- ・奈良には観光資源がたくさんあるのに、それを上手く使えてないイメージがあり、もったいないと感じます。
- ・私の親や祖父世代の人は、奈良は住みやすく良いところだというけど、私たち若者世代はその良さを分かっていないので、このなら学プラスを通して奈良の良さを実感したい。
- ・「奈良は泊まらなくてもよい観光地」というイメージを払拭させることも大事だと感じた。

- ・奈良県は靴下産業が有名だとは知りませんでした。靴下は、日常生活に密接に関わりすぎてあまり気にしていませんでしたが、躓きにくい靴下など機能性に驚きました。
- ・富山県に比べて奈良県には薬というイメージは湧かない。
- ・奈良女の卒業生で博士号をとられた先輩の話も聞いて嬉しかった。
- ・講義いただいた社長さんからの「出来ないではなく、どうすればできるか」というメッセージが印象に残りました。
- ・奈良県産の木材と他の木材の年輪の幅の違いに驚きました。
- ・林業は先進国にしかできない産業であることに驚くとともに、国全体で改善しなければならない課題であることが分かりました。
- ・奈良の吉野における林業が、奈良の魅力の一つとしてもっと知名度を上げていくことも林業発展のピースなのかなと思いました。
- ・自治体がこんなにも地域活性化に取り組んでいる例は初めて知った。地域づくりの面白さ、大変さや中山間地域の課題解決のために、情報共有の重要性を感じた。
- ・やっぱり、「結婚と出産」、「就職と出世」は女性にとって永遠のテーマだと思いました。(キャリアを積みたと思っている反面、家庭をもって子供も欲しい)
- ・働く女性のあり方として、「八方美人は企業でも個人でもダメ」という言葉が印象に残りました。
- ・福祉と地域づくりはあまり結びつくイメージはなかったのですが、「育てる福祉」という言葉を聞いて、今までの福祉への印象も少し変化したように思えます。
- ・コンテンツツーリズムという言葉を知った。アニメ作品などを通じて、既にイベントが行われており、このような方法で地域を活性化するのは面白いと感じた。
- ・奈良女子大学生による取り組み報告を聞いて、いろんな視点から奈良県に対する取り組みができるのだと思いました。
- ・やはり、観光ばかりに力をいれるのではなく、奈良に居住者を増やすことに力を注いだ方がよいと思いました。
- ・総括講演を聞いて奈良を知るためのツール (RESAS) がたくさんあることを知りました。
- ・しっかりとしたデータに基づきターゲットを絞るといった提案手法や考え方ができて良かったです。
- ・なら学プラスを通じて、新たな発見がたくさんできて受講して良かったと思いました。

共同開催：「やまと」育精英プロジェクト<COC+(プラス)事業>

平成29年度「なら学+(プラス)」
～奈良に提案したいこと～ **最終回**

「なら学+(プラス)」では、地産で活躍できる人材の育成を目的として奈良県内の企業・自治体からゲストスピーカーをお招きし、貴社の魅力を発信し、産官が抱える課題を共有しながら、協働創生につなげてまいります。

最終回は、奈良県国営公園学サテライト施設を拠点とした学生の活躍を紹介し、また、御内閣立地からのご意見も交えて、議論を通して得たものを振り返り振り返っていきます。

と き：平成30年1月23日(火)
午後1時から午後2時30分

**と ころ：奈良女子大学 文学系S棟 2階
S235教室 (大講義室)**

<おもな内容>

- ・活動紹介 学生による事例報告
(1) 十津川村での活動について
(2) 野添川村での活動について
- ・総括講演 「大学生の視点を地方創生に活かす」
一般財団法人 南都経済研究所
主任研究員 吉村 謙一 氏

当日は公開講座です

※「なら学+(プラス)」は、地産地消型社会の発展に貢献しているのが、数回多くは、より多くの皆さんと共有できるような講座を企画している。学生や市民が参加したい講座も、あるいは自分に関心がある分野の分野にも興味を持って参加できるように配慮いたします。ぜひお申し込みください。

一般財団法人
NERI 南都経済研究所

平成30年1月23日

平成29年度「なら学+(プラス)」最終回
～奈良に提案したいこと～

総括講演
「大学生の視点を地方創生に活かす」

一般財団法人 南都経済研究所
主任研究員 吉村 謙一
(中小企業診断士)






図1 なら学+（プラス）授業の様子

2) 地域志向科目の学内周知

①学内向けリーフレットの作成

地域志向教育プログラムの履修者を増やすための取り組みの一環として地域志向科目のリーフレットを作成し、全学生・全教員に配布した。



図2 地域志向科目のリーフレット

②平成 30 年度「全学教育ガイド」への記載

地域志向教育プログラムの履修者を増やすための取り組みの一環として、授業の履修登録時に必要とする「全学教育ガイド」ならびに「専門教育ガイド」に、地域志向科目についての記載を行った。

記載内容は以下の通り。

地域志向科目

「地域志向科目」とは、「奈良女子大学的教養」の理念に掲げられた問いのうち、“奈良で学ぶことを通じてあなたは世界にどんな貢献ができますか”“大学で学ぶことはあなたと未来の世代の人たちにとってどんな意味がありますか”を具体的に問いかける科目です。奈良というフィールドにおいて、“社会的実践に飛び込む”“本物にふれる”“他者と学ぶ、他者から学ぶ”などのアプローチを駆使することによって、問題を解決する能力を養い、さらに専門学の深い学びへとつなげます。

地域志向科目には、奈良を知り奈良を好きになる契機とする科目（地方創生科目）と、参加自治体に赴いて地域の課題解決に実践的に取り組む科目（PBL型教育）があります。「教養教育科目」、「キャリア教育科目」以外に、各学部の「専門教育科目」にも地域志向科目に指定された科目があり、1回生から4回生まで履修することができます。全ての学生が、卒業するまでに1科目以上履修することを推奨します。地域志向科目は科目一覧の備考欄に「地域志向科目」と記載しています。

今年度の地域志向科目は次の科目一覧のとおりです。

全学共通科目

教員	講義コード	開講科目	週時間	単位	開講期
成瀬・角田	102300	「奈良」女子大学入門	2	2	前期
高田・吉田	136111	パサージュ 20A	2	1	前期
宮路	136115	パサージュ 32A	2	1	前期
宮路	136116	パサージュ 32B	2	1	後期
寺岡	139500	なら学	2	2	前期
成瀬	139550	なら学+（プラス）	2	2	後期
小路田 他	139930	環太平洋くろしお文化論	2	2	後期
高村	152511	キャリアデザイン・ゼミナールB（11）	集中 30	1	後期
高村	152517	キャリアデザイン・ゼミナールB（17）	集中 30	1	前期
三木	152541	キャリアデザイン・ゼミナールB（41）	集中 30	1	前期
三木	152542	キャリアデザイン・ゼミナールB（42）	集中 30	1	後期
横山 他	152546	キャリアデザイン・ゼミナールB（46）	集中 30	1	前期
室崎 他	152552	キャリアデザイン・ゼミナールB（52）	集中 30	1	前期
室崎 他	152553	キャリアデザイン・ゼミナールB（53）	集中 30	1	後期

文学部専門教育科目

教員	講義コード	開講科目	週時間	単位	開講期
山近	2010180	歴史地理学概論	2	2	後期
浅田	2010760	地誌 A	2	2	前期
武藤	2032120	文化人類学特殊研究	2	2	後期
水垣、佐藤、寺岡	2033780	コミュニティー・リサーチ	不定期	1	前期
内田	2033900	文化メディア学実習 B	集中 30	1	前期集中
内田	2034990	現代民族論演習	2	2	前期
寺岡	2001070	なら学概論 B	2	2	後期
西谷地 他	2033570	歴史学実習	不定期	1	後期
水垣、佐藤、寺岡	2033790	コミュニティー・アクション	不定期	1	後期
武藤・寺岡	2034020	なら学演習	2	2	後期
西村、浅田、高田	2034780	地域社会の課題演習	30	2	後期集中

理学部専門教育科目

教員	講義コード	開講科目	週時間	単位	開講期
井田 他	4504200	森林生物学野外実習	集中 30	1	前期集中
片野 他	4504300	河川生物学野外実習	集中 30	1	前期集中

生活環境学部専門教育科目

教員	講義コード	開講科目	週時間	単位	開講期
中山	5522000	地域居住学	2	2	後期
室崎	5525000	福祉住環境学	2	2	前期

3) 平成 30 年度開講準備

地域志向教育プログラムのさらなる履修者を増やすための取り組みの一環として、平成 30 年度に、『奈良』女子大学入門』の開講準備を進めている。この科目は、本学が所在する『奈良』への理解を深め、地方創生への関心並びに県内就職への意識を高めるための内容を主として、安全な学生生活を送るための基本的な知識に関する内容も含めて構成するものである。本科目は教養教育科目群に位置づけ、全学年・全学部生を対象とする予定である。

4) 単位互換

「なら学+ (プラス)」は、COC+事業の参加校である奈良工業高等専門学校からは工学系「ものづくり」の専門的知見を、奈良県立大学からは観光・地域創造の専門的知見の提供を受けて、COC+3 校連携で開講している。当該授業の実施に先立ち、COC+3 校の地域

創生に関わる教育資源を活用し、人材育成に貢献するために、COC+3校が提供した科目を相互に履修し単位認定ができる単位互換制度の覚書を締結した。この覚書締結により、地方創生に必要な人材を育成する目的を達成するため、それぞれの教育機関の特色を活かした分野の授業を、各大学等の学生が相互に履修し単位を取得することを認めるものである。覚書締結により、地方創生を理解するための、学生の関心や興味に応じた特色ある多くの授業科目の提供が可能となるとともに、参加大学等間の協力・交流体制の充実が図られることとなった。

平成29年度後期は、奈良女子大学の「なら学+（プラス）」を対象科目とした。平成30年度以降、『奈良』女子大学入門」など順次追加予定である。

5) 「十津川地域活動センター」(サテライト)の開所

奈良県南部の農山村は、深刻な高齢化、過疎化、林業の衰退に瀕しているが、こうした課題は現在日本社会の多くの地域が抱える課題でもあり、課題自体が一種の資源であると考えれば、奈良県南部の山村は、「課題先進地域」とも言える。

奈良女子大学においては、多くの課題を抱える県南部地域において体験型教育や問題解決型教育を実施し、地域創生を担う人材を地域社会とともに育て地域に還元するためのサテライト環境として平成30年1月に「十津川地域活動センター」を開所した。平成28年3月の「奈良女子大学野迫川村交流センター」、平成28年7月「奈良女子大学下市アクティビティセンター」の開所に続くもので、奈良女子大学の地域志向科目「キャリアデザイン・ゼミナール」等の科目において、地元の人々や自治体の職員と一緒に地域の現状を調査し、その魅力を見出すことを通じて、課題の解決の糸口となるアクション（PRコンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）を企画・実践した。観光振興、社会ネットワークの構築といった同町の地域創生に寄与できる事業を展開しており、コミュニティの再構築や地域文化の伝承に寄与する拠点を目指している。



図3 奈良女子大学十津川村地域活動センターの様子

6) 木工作品展示場ならびに野迫川村、下市町、十津川村サテライトの紹介コーナー
 PBL 科目「奈良の木の造形演習」の成果公表のため、文学系 S 棟 1 階に学生による木工作品の展示場を設置し、3つのサテライト紹介パネルを展示した。

目的は、奈良県南部地域に入り、地方創生に寄与している学生の姿を紹介することにより、本学に在籍するより多くの学生にも地域に飛び込むことで得る学びの重要性や動機付けならびに、サテライトの利用拡大にある。なお、このコーナーは、定期的に奈良県南部での他の学生の活動成果物なども併せて入れ替え展示している。



野迫川村サテライト
 =奈良女子大学野迫川交流センター=
 (旧野迫川中学校内)

野迫川村
 人口：4,899人(平成25年) 2,100戸
 面積：3,514.9km²
 市庁舎
 ・奈良県(奈良県)24-0711 市役所内100m
 ・奈良県(奈良県)24-0711 市役所内100m

現地での活動

奈良女塾
 1991年設立。卒業生約1,500名。奈良県南部地域の発展と女性の自立を支援する目的で、卒業生が中心となって活動している。卒業生が中心となって活動している。卒業生が中心となって活動している。

卒業生が中心となって活動している。卒業生が中心となって活動している。卒業生が中心となって活動している。

卒業生が中心となって活動している。卒業生が中心となって活動している。卒業生が中心となって活動している。

下市町サテライト
 =奈良女子大学下市町アクティビティセンター=
 (下市町農村環境センター内)

下市町
 人口：2,758人(平成25年) 1,000戸
 面積：9.2km²
 市庁舎
 ・奈良県(奈良県)21-309 市役所内100m
 ・奈良県(奈良県)21-309 市役所内100m

現地での活動

コミュニティ・リサーチ
 コミュニティ・リサーチとは、地域住民と協力して、地域の課題を調査・分析し、解決策を提案することです。

コミュニティ・アクション
 コミュニティ・アクションとは、地域住民と協力して、地域の課題を解決するための具体的な取り組みです。

学習支援
 地域住民の学習支援を行うための取り組みです。

十津川村サテライト
 =奈良女子大学十津川地域活動センター=
 (十津川村北部保健センター内)

十津川村
 人口：2,424人(平成25年) 1,000戸
 面積：10.5km²
 市庁舎
 ・奈良県(奈良県)21-309 市役所内100m
 ・奈良県(奈良県)21-309 市役所内100m

現地での活動

福祉住環境学
 福祉住環境学とは、高齢者の生活環境を改善するための取り組みです。

林農体験
 林農体験とは、森林と農業の体験を通じて、地域の魅力を伝える取り組みです。

地域づくり活動への参加
 地域づくり活動への参加とは、地域の発展に貢献するための取り組みです。

図4 木工作品展示場とサテライト紹介パネルの様子

(3) 「地域志向科目」の開講・履修状況

1) 地域志向科目の開講科目数ならびに履修状況

表2 地域志向科目の開講・履修状況

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度 (予定)
開講科目数	29 科目	29 科目	30 科目
地域創生科目	15 科目	13 科目	16 科目
PBL 科目	14 科目	16 科目	14 科目
履修者数			
H28 年生	236 人 (47%)	297 人 (59%)	
H29 年生		277 人 (54%)	
新規開講科目例	キャリアデザイン・ゼミナール (日本一の奈良を知る)	「なら学+ (プラス)」	「奈良」女子大学入門

平成 29 年度の地域志向科目数は 29 科目で、前年度と同数であるが、地域志向教育プログラムの履修者割合については、平成 28 年度入学生の 47.1% (501 名中 236 名) から平成 29 年度入学生の 53.8% (515 名中 277 名) へと増加している。

なお、履修者数を更に増やすための主な取組は以下のとおり。

① 学生への周知

前期・後期のガイダンスにおいて、ガイダンス担当の教員が、COC+事業の概要ならびに、地域志向科目を履修することの趣旨や、受講によって養われる能力等について説明し、地域志向科目が全学的な履修推奨科目であることを指導している。また、29 年度においては、地域志向科目のリーフレットの配布ならびに学生向け教育ガイドへの記載を実施している。

また、本学では大学構内にある掲示場の一角に、「やまと共創郷育センター掲示板」を設置し、事業内容の説明、地域志向科目の提示、関連行事の周知を行っている。

② 地域志向科目の位置づけ

平成 27 年度に開講した「キャリアデザイン・ゼミナール C(4)」(日本一の奈良を知る) は、奈良県が誇る「日本一」の産業を外部講師によるリレー講義形式で紹介した。奈良県に対する関心を深め、自身の将来を考えるきっかけとなる科目であったが、キャリア教育科目群に位置づくため卒業要件単位に含まれなかったこともあり、平成 29 年度から「なら学+ (プラス)」として内容をさらに充実させて教養科目群に位置づけ、卒業要件単位に含むことにした。さらに、地域志向科目の必修化(1 単位以上)を実行するための学内手続きを進めている。

③ 新規科目の設置

教養教育科目に位置づく「なら学」は、「奈良」をキーワードにしたリレー講義形式の科目であり、奈良を知り、関心を持たせるために、新入生を中心に全学年に広く受講を推奨している。平成 29 年度後期は、「なら学」の講義要素に COC+事業的要素を加えて発展させた「なら学+ (プラス)」を新規開講し、県内企業並びに自治体のゲストスピーカーを迎えて、奈良の課題や取り組みについて理解を深めた。この科目を通じて、県内企業・自治体に関する情報を発信し、学生の県内就職への意識を高める契機とする。さらに、平成 30 年度には、「『奈良』女子大学入門」の開講準備を進めている。

2) 平成 29 年度地域志向科目一覧

平成 29 年度に開講した地域志向科目ならびに受講者数は以下の通りである。

分類	区分		コード	授業科目名	担当教員	受講者数
教養教育科目	PBL	前	0136101	パサージュ 1A	内田	17
	PBL	前	0136102	パサージュ 1B	内田	15
	地方	前	0136111	パサージュ 20A	高田・吉田	6
	地方	前	0139500	なら学	寺岡 他	225
	地方	後	0139550	なら学+ (プラス)	成瀬	175
	地方	後	0139930	環太平洋くろしお文化論	小路田	71
キャリア教育科目	PBL	後	0152511	キャリアデザイン・ゼミナル B(11)	高村	25
	PBL	前	0152517	キャリアデザイン・ゼミナル B(17)	高村	30
	PBL	前	0152541	キャリアデザイン・ゼミナル B(41)	三木	4
	PBL	後	0152542	キャリアデザイン・ゼミナル B(42)	三木	4
	PBL	前	0152546	キャリアデザイン・ゼミナル B(46)	横山 他	5
	PBL	前	0152552	キャリアデザイン・ゼミナル B(52)	室崎 他	10
	PBL	後	0152553	キャリアデザイン・ゼミナル B(53)	中山 他	7
文・専門教育科目	地方	後	2001070	なら学概論 B	寺岡	41
	地方	前	2010180	歴史地理学概論	出田	33
	地方	前	2032120	文化人類学特殊研究	武藤	76
	PBL	後	2033320	なら学フィールドワーク実習	寺岡	21
	PBL	後	2033570	歴史学実習	西谷地 他	18
	PBL	前	2033780	コミュニティ・リサーチ	水垣・寺岡	7
	PBL	後	2033790	コミュニティ・アクション	寺岡・水垣	9
	PBL	前	2033900	文化メディア学実習 B	内田	14
	地方	後	2034020	なら学演習	武藤・寺岡	20
	地方	後	2034770	地域探求実践演習	西村 他	11
	地方	後	2034780	地域社会の課題演習	吉田	0
	地方	前	2034990	現代民族論演習	内田	14
理・専門教育科目	PBL	前	4504200	森林生物学野外実習	酒井 他	19
	PBL	前	4504300	河川生物学野外実習	佐藤 他	17
生環・専門教育科目	地方	後	5522000	地域居住学	中山	37
	地方	前	5525000	福祉住環境学	室崎	30
合計						961

* 地域志向科目を重複して受講している学生がいるため前記表 2 の数値とは一致しない。

(4) PBL型、フィールドワーク型科目の報告

①地域居住学における野迫川村での活動報告：担当教員 中山 徹

地域居住学(住環境学科専門科目)で野迫川村を訪問し(フィールドワーク)、それを踏まえてワークショップを開催した。その概要と参加者の感想文である。フィールドワークは10月14日、15日に、ワークショップは10月31日に実施した。

1) フィールドワークの概要 10月14日(土)～10月15日(日)

■ 池津川集落の見学と講義

池津川集落を見学し、池津川区長さんのお話を伺った。この集落は野迫川村の中でも幹線道路から入ったところに位置し、人口減少、高齢化が特に進んでいる。その状況を伺った。また、閉校した池津川小学校、区長さんのご自宅を見学した。野迫川ホテルにて地元猟友会・曾我部さんより、地元の狩猟について、獣被害等についてお話を伺った。猟師が減少している現状とそれに伴う森林保全の現状など、村の状況について現況を学んだ。

■ 大股集落・養殖場の見学

大股集落で取り組んでいるアマゴの養殖場を見学した。そこで養殖の現状、今後の課題などを伺った。

■ 北股集落の見学と講義

北股集落の被災現場を見学し、区長さんに説明して頂いた。また、復興事業で改修が予定されている旧北股小学校を見学し、改修内容などについて話を伺った。

その後、奈良女子大学野迫川村交流センターにて、北股区長さんから災害時の様子や被災状況、仮設住宅での生活についてお話を伺った。



2) ワークショップの概要 10月31日(火)

10月14、15日の野迫川村でのフィールドワークで学んだことを踏まえ、大学で10月31日にワークショップを行なった。議題は、①野迫川村の良いところ、②野迫川村で改善した方がいいと思う点、③学生が野迫川村で貢献できると思うことの3点である。

これら3点について、学生が6班に分かれてグループディスカッションを行った。班内で話し合った結果を授業の最後でプレゼンし、各々の考えを全体で共有することで、野迫川村に対する考えをさらに深めた。

3) 参加した学生の感想

①学生から見た野迫川村の良いところ

野迫川村の人々は皆さん温かく、とても優しくかったです。若い人が少ないので学生が村に来ることが貴重ということもあったかもしれないが、村の説明はとても詳しく、私たちの質問には丁寧に答えてくださり、区長さんの家にお邪魔させていただくこともありました。また、村の人はみなさんお知り合いだとおっしゃっていたので、東京などでは隣の部屋に住んでいる人にも挨拶をしないようななか、村全体の仲が深そうでこの村に住んだらみんなで協力して楽しく過ごしていけそうだと思います。自然においては、自然豊かでとても空気が

きれいでした。私自身、自然や風景が好きで、すごく緑の多い環境でゆったりと過ごすことができました。また、子供が減ってきて現在は使われていない小学校の校舎を、公共施設として活用しているのは素晴らしいなと思いました。

②学生から見た野迫川村の改善点

第一に、若者が少ない以前に人が少ないことが気になりました。野迫川村で育っても、大きくなったらより便利な都市へ出て行ってしまう人が多いのだと思います。スーパーが無く1週間に1回移動販売車があるということを知って1週間先のことまで考えなければならぬので大変だと思いました。また、交通の便が非常に悪く、電車が通っていないことに加えて道路も幅が狭く車で移動しにくいだろうなと感じました。

③学生にできること

若い人は村を出て行き、村に入ってくる人は少ないという問題点があります。それを改善するためには、まず野迫川村の知名度をあげ、一度来て良さを知ってもらう必要があると思います。そのために学生ができることをいくつか挙げたいと思います。

大がかりな工事や金銭的に厳しいことは学生には難しいですが、イベントを企画して野迫川村の集客を手伝うことはできます。例を挙げると、マラソン大会や、自然を楽しむバスツアーなどが考えられます。近くに高野山があり観光客が多く賑やかだったので、高野山に行くことを含めたツアーを考えるのが良いかと思います。また、最近の若い人はSNSで見つけて良いと思ったお店やスポットに行くことが多いので、反響が出そうな絶景スポットを見つけてホームページなどに載せたり、奈良女子大学の生徒が協力して情報を広めたりすると良いと思います。とくに、村では電波が悪くインターネットを使うことが困難だったので、奈良女生がネットやSNSでPRをすることは最も簡単で協力できることだと思います。

ただ、問題点でも挙げたように、実際に行ってみて交通の便が悪いということは感じました。電車が通っていないということはしょうがないにして、道が狭くてバスが通りにくく、車同士がすれ違うのも非常に危険だと思いました。人を呼ぶためには交通整備をすることも必要だと思います。これは学生が行うには困難ですが、整備に必要な募金活動をするくらいは学生にもできると思います。

4)野迫川村の長期的な展望

授業で野迫川村について、魅力、改善点、学生ができることをグループでディスカッションをし、グループで出た意見の中で特に気になったものを挙げると、以下のようになる。

- ① 魅力：別世界に思える、みんな知り合い、仮設住宅で過ごしていた時の記憶
- ② 改善点：アピール不足、活気がない、ネットワーク環境が不便
- ③ 学生にできること：SNSの利用、企画立案、技術の伝承

これらの野迫川村の魅力や改善点を踏まえて、野迫川村の発展のために学生ができることを挙げていく中で、学生自身が現地の人と協力しながら企画・運営を行い、その情報をSNSなどさまざまな方法で発信し、たくさんの人に野迫川村を知り、企画にも参加してもらう、さらにその様子をまた拡散するということが考えられる。企画は、たとえば、現地でのイベントを行う、合宿で利用してもらえるような提案をするなどがある。ほかにも、野迫川村の豊かな自然を活かした天体観測イベント、あまごつり体験、狩猟イベント、サバゲー運営もあげられる。自然を利用したイベントを企画する際には自然の保護という観点も忘れてはならないと思う。さらに、改善点にもあげていた廃校の転用・リノベーションも特に私たち建築学生が積極的に関わることができることであるだろう。

②住環境学基礎実習における十津川村での活動報告：担当教員 室崎 千重

■住環境学基礎実習における十津川村での活動報告

1) 授業実施日

2017年10月9日～10日	十津川村谷瀬集落の村づくり活動実践（看板づくり等） 村の魅力発見調査（小辺路）
2017年11月17日	谷瀬集落の寄合参加（活動の報告と今後の計画相談）
2018年1月26日～27日	谷瀬集落の寄合参加、昔の暮らし写真の収集
2018年2月10日、12日	美吉野醸造にて 純米酒「谷瀬」の仕込み体験
2018年3月7日～8日	谷瀬集落の寄合参加、昔の暮らしの写真展の準備
後期随時	谷瀬集落の魅力発信マップ、冊子の製作

2) 授業の概要

住環境学基礎実習のひとつのプログラムとして、十津川村谷瀬集落に通い、村の方と一緒に今後の移住・定住を見据えた村づくり活動の実践に取り組んでいる。本授業は地域課題の理解と実践を通して村づくりの方法を学ぶことを目的としている。初年度からの活動の継続に加えて、毎年を受講学生が地域での気づきをもとに新たな提案を考え、実践している。継続的な活動として、谷瀬集落内のゆっくり散歩道の看板整備、古民家の休憩所“こやすば”の活用、純米酒「谷瀬」の米作りからお酒の仕込みへの参加を行い、今期の新たな活動としては、谷瀬集落内の魅力を紹介するパンフレットの製作と、集落の昔の暮らしの風景を集めた写真展の準備に取り組んだ。授業は現地で行う調査、地元の寄合での提案・活動報告、地域での活動実践と、学内で行う課題の分析、アイデア出し、製作作業からなる。

担当教員は室崎千重（生活環境学部）、今期は生活環境学部3回生4名と室崎研究室の学生6名が受講した。

3) 学生の感想と写真

学生の感想では「地域の魅力と課題に気づくことができた」「自分たちの活動が地域内でかたちになっているのを見ると嬉しい」「地域活動の実践を通して住民さんに喜んでもらったことでもっと頑張りたいと思った」などが挙げられており、地域での実践を通しての学びが得られている。



谷瀬集落内のゆっくり散歩道の看板整備



谷瀬集落内の古民家休憩所“こやすば”の観光客への開放



谷瀬集落の寄合へ参加 学生の活動報告、提案を行う



十津川村での学生の意見交換、活動の様子

4) 授業成果（担当教員からのコメント）

集落内を歩いて調査することで、地域のさりげない魅力の発見やちょっとした改善でよくなる点など丁寧に地域を見る視点を持つ機会となっている。また、学生が関わって改善できることを自分たちで話し合い、実践に繋げることで、地域課題の解決に向けた手法が体験的に理解できている。集落の方からも、学生の関わりが活気となっており、お互いにより効果が生まれている。

■福祉住環境学 十津川村の高齢者の暮らしを学ぶ

1) 授業実施日

2017年6月13日	学内にて十津川村概要説明、高齢者への質問項目検討
2017年6月17日～18日 (Aグループ14名)	十津川村谷瀬集落の散歩道整備、高齢者2名のお話 高森のいえ、復興公営モデル住宅の見学、レクチャー

2017年7月15日～16日 (Bグループ13名)	十津川村内原集落の地域活動、高齢者3名のお話 高森のいえ、復興公営モデル住宅の見学、レクチャー
2017年7月18日	学内にてグループごとに現地での気づき、提案を発表

2) 授業の概要

福祉住環境学（住環境学科専門科目）の5回は、中山間地域の高齢者福祉について十津川村での学習を通して学び、課題を深く理解し解決に向けた提案を考えることを目的としている。十津川村の集落に暮らす高齢者から暮らしの様子、生活課題のお話を通して地域への理解を深め、高齢者も最期まで暮らし続けられる村づくりの実践である「高森のいえ」等の見学を行う。学生はグループごとに、地域での気づき、課題、提案を整理して発表する。担当教員は室崎千重（生活環境学部）、生活環境学部3回生27名が受講した。

3) 学生の感想と写真

学生の感想レポートには、「地域に暮らす高齢者のお話を聞いたことがとてもよかった」「訪れて初めて中山間地域の暮らしが理解できた」「ほぼ自給自足の生活に驚いた」「暮らしは不便だと思うが高齢者が出て行きたくないとの言葉に地域のあり方を考えさせられた」「高森のいえという新たな取り組みがすごい」「お金による豊かさではなく、人との交流や手間をかけた食べ物を味わうなど、暮らしの本当の豊かさを感じることができるのが十津川村の魅力である」などが挙げられた。

4) 授業成果（担当教員からのコメント）

中山間地域の高齢者の暮らしについて直接お話しを聞き、家や畑、周辺の環境に触れ合うことで実感を持つことができ理解が深まった。少子高齢化社会において全国で共通する課題も多く、居住継続ができる地域のあり方を考えるための重要な学びの機会となった。

■ “鹿と木 マルシェ” の開催（キャリアデザインゼミナール：奈良の木 造形演習）

1) “鹿と木 マルシェ” の開催と準備

2017年10月21日	イベント名、ロゴ、イベント内容を相談、決定
2017年11月11日	木工マルシェに向けた商品の準備（杉アクセサリーのデザインと加工）、ポスターデザイン
2017年11月25日	木工マルシェに向けた商品の準備（檜カッティングボードのデザインと加工、松ぼっくりツリーのパーツ製作）
2017年12月9日	奈良女子大学の中庭にて“鹿と木 マルシェ”の開催

2) イベントの概要

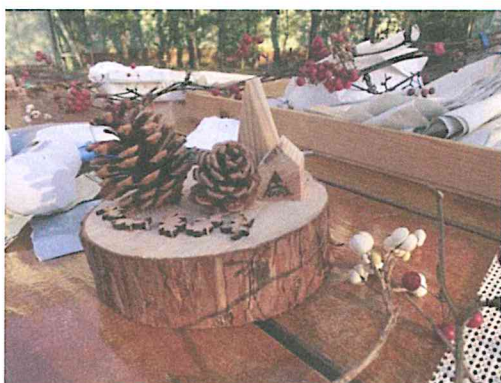
“鹿と木 マルシェ”は、キャリアデザインゼミナール「奈良の木 造形演習」の授業の中で、奈良の木の魅力を地域の人、受講していない学生に伝えることを目的として今年度誕生したイベントである。学生が十津川村の杉と檜で創った木工品の素材を原価で販売し、参加者にヤスリかけ、オイル塗りの仕上げ作業を体験してもらい、作品を持ち帰ってもらう。商品づくりからイベント名とロゴの考案、広報、会場デザインまで学生が主体となって取り組んだ。天気に恵まれ、73人がマルシェを体験し、「楽しかった」「木の感じがすてきで良かった」など好評であった。

3) 学生の感想と写真

学生の感想では、「お客さんが笑顔で嬉しかった、運営もとても楽しかった」「お客さんが来てくれるか不安だったが、地域の幼稚園の子から年配の方まで幅広い年齢層の方に楽しんでもらえてよかった」「イベントの運営をしてみて、楽しさとともに大変さや難しさも学ぶことができ、とてもいい経験になった」「家族や友達と楽しく物作りを体験できる場を提供することはとても大切なことだと思った」「後日、作ったものを気に入って使っているとの声を聞くことができ、参加者の皆さんに楽しんで頂けたことを実感できた」などが挙げられており、学生にとっても貴重な経験となった。



“鹿と木 マルシェ”の様子（全体）



“鹿と木 マルシェ”の木工商品
(左：カッティングボードとアクセサリ、右：松ぼっくりツリー)



イベント参加者の木工体験の様子

4) 授業成果（担当教員からのコメント）

受講生が感じた木の魅力を一人でも多くの人に学生が伝えることを目標として、イベントの企画から開催まで学生が主体となって実践した。多くの参加者に木の魅力を伝えられたこ

とに加え、学生もイベントを通して木の魅力と自分たちにできることを認識できる機会となった。授業内での木工体験では実現できなかった、地域への波及効果が小さいながらもつくられたことは、今年度の大きな成果である。

③中山間地域における活動報告（高田将志・吉田容子）

1) 授業実施日

2017年度「パサーージュ 20A」授業（全学1回生対象）

- 第1回（4月10日、11日、12日）：合同オリエンテーション（いずれか1回参加）
- 第2回（4月18日）：ガイダンスおよび現地訪問のための資料収集、事前学習の方法の説明
- 第3回（4月25日）：下市町現地訪問のための作業実習(1)
- 第4回（5月9日）：下市町現地訪問のための作業実習(2)
- 第5回～第7回（5月13日～5月14日、1泊2日）：下市町での野外実習(1)～(3)
- 第8回（5月23日）：下市町での野外調査結果の報告会

2) 授業の概要

本授業における学びの特徴は、「実際に、地域に足を運んで、自分の目で確かめて実感する」ことである。今回は、奈良県吉野郡下市町において1泊2日の野外実習を行った（1回生6名（文学部5名、理学部1名）、教員2名、TA学生1名）。奈良県南部の中山間地域が直面している過疎化や高齢化、農林業が抱える諸問題を把握・実感し、主体的に考えてもらうことがねらいである。野外実習前の授業では、下市町について関心を持ったテーマを選び、各自下調べを行って発表した。野外実習後の授業では、参加学生による報告会を行った。

野外実習1日目：昼前に下市町に到着。昼食後、漢方・茶葉・香辛料の卸問屋のご厚意により、所有の薬草園や倉庫の見学を行った。その後、役場内アクティビティセンターにて、卸問屋代表より、同町の薬草栽培の歴史について講義を伺った。

野外実習2日目：山林所有者の方の案内で植林地に入り、間伐、枝払い、薪割等、学生にとって初めての作業体験の後、中山間地域の林業の現状について説明を受けた。

3) 学生の感想（学生の最終レポートより抜粋）

以前から中山間地域の抱える問題について関心があったので、この授業を受講した。今回は薬草を作る現場を見たり、人生初の林業体験など、貴重な体験をすることができた。そして何よりも、頭では理解していてもまだまだ問題を自分のこととして捉えられていなかったことに気がつき、ニュースの向こう側にある問題に自らの足を踏み入れて考えることができた。

理学部なので、普段はあまりこういった講義をとる機会はない。自分の専攻しているのとは違う領域の学問を学ぶ機会を得て、大学で学ぶべきは何か、改めて考えることとなった。理系学生にとって、文系の学問を学ぶことは一見無駄なことに思えるかもしれないが、この講義で考えさせられることがたくさんあったし、普段の生活では決して出会えないような人や物に出会うことができた。この経験はこの先、自分で考え、行動していく中で、必ず役に立つものだと思う。

事前に下市町についてある程度のイメージをもって現地を訪れたわけだが、実際に訪れてみると文章やグラフからは見えてこなかった問題の複雑さというものが見えてきた。ホームページ上に載っていた取り組みやプログラムも、すべてが順調に進んでいるというわけでは

なかった。まちづくりに興味があるが、知識はもちろん、人に伝える力や、人を惹きつけて動かす力など、地域の人と関わっていく中で特に大切な力がまだまだ十分ではない。今回出会った、町のために働く様々な方々を私淑し、今後地域のために貢献できる人になるために努力していこうと思う。

林業体験が一番印象に残りました。特に、チェーンソーで木を切った時の感覚は今でも覚えています。枝を落としたり、木に登ったり、薪を割るなど初体験のことばかりで、本当に良い経験をさせてもらえたなと思います。実際に体験をしたことで林業に対するイメージが変わり、今まで知らなかった山の役割を知れてとても興味が湧きました。

現場の声を聴かせていただいたおかげで、今の林業界の現状や問題を改めて知ることができました。現場の難しさや手作業ゆえの効率性の悪さなど、様々な過疎地問題などもある中で、どんどん若い担い手がいなくなり、歴史ある林業が無くなってしまふのはもったいないと思いました。また、こういった問題が日本全国で起きているのだと思うと、何とかして解決していかないといけないなと思います。私自身は林業体験を通して、何か将来関われば良いなと思いました。



漢方等を扱う卸問屋の倉庫見学



薬草栽培の歴史を伺う



間伐・枝払い作業の体験



枝打ち作業の体験

4) 授業成果 (担当教員からのコメント)

担当者の専門分野(「地理学・地域研究」)では、とにかく現場に出て現場を見る、ということが大事であるが、これは、そのような活動に馴れていないと意外に難しいものである。そのため、卒業論文に取り掛かる学年になっても、腰が重く、現地になかなか足を運ばない(運べない)学生が少なからずいる。本授業の受講生は1回生であるので、まずは、現場に

出る楽しさや、そこで何を見て、何を感じ、何に興味を持つのかということを中心に考えてほしかった。野外実習時の学生の様子や最終レポートを見る限り、現場に出る楽しさや意義を体感してくれたと思う。

④地域コミュニティにおける活動報告：担当教員 水垣 源太郎

■コミュニティ・リサーチ：地域コミュニティの課題把握法

1) 授業実施日

- 第1回 4月11日 オリエンテーション、ゲストスピーカー：秋谷奈美氏「集落支援員からみた下市町」
- 第2回 4月18日 講義「らくらく農法プロジェクトについて」、昨年度授業成果紹介、集落点検準備
- 第3回 4月25日 講義「地域調査法と地域ニーズの掘り起こし」、集落点検準備
- 第4回 5月6日～7日 現地実習（奈良高専と合同）
 - 第一日：第1回集落点検（下市町広橋区住民10名）
 - 第二日：下市町巡検、地域文化資源体験実習（朴ノ葉寿司づくり）
- 第5回 5月30日 集落点検報告書作成作業
- 第6回 6月6日 ゲストスピーカー：渡辺淳氏（株式会社ブルーオーキッド・コンサルティング）「地域特産物マーケティング法」
- 第7回 6月13日 集落点検報告書作成作業
- 第8回 6月27日 集落点検報告書作成作業
- 第9回 7月4日 集落点検報告書作成作業、集落点検準備
- 第10回 7月11日 公開講座および集落点検準備
- 第11回 7月15日 下市町・奈良女子大学連携公開講座（講演：佐藤・水垣）、第2回集落点検（下市町広橋区住民4名）
- 第12回 7月18日 集落点検振り返り

2) 授業の概要

本授業（コミュニティ・リサーチ）は、後期授業（コミュニティ・アクション）とともに、地域コミュニティの現状を理解するためのコミュニティ社会学の理論と方法を実践的に学び、それを通して、課題の解決の糸口となるアクション（PRコンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）の企画・実践の過程を体験的に学ぶことを目的としている。

本授業ではまず、コミュニティ社会調査の方法論とその実践例（らくらく農法）を概説した後、下市町広橋区の地域住民の方々や下市町役場地域づくり推進課の協力を得て、2回の現地調査実習（集落点検）と巡検、地域文化資源体験実習（朴ノ葉寿司づくり）を行った。その成果はフォトブックにまとめて、後期授業の現地調査時にご協力いただいた地域住民の方々に還元した。

担当教員は水垣源太郎（文学部）、佐藤克成（生活環境学部）の2名であり、受講生は7名（文学部4名、生活環境学部2名、留学生1名）であった。とくに、本授業は奈良高専と連携して行い、奈良高専学生6名が参加した。学生は第1回（4/11）～第3回（4/25）の講義をビデオ録画によって奈良高専において受講し、第4回（5月6日～7日）の現地実習を合同で行った（教員3名、学生13名参加）。

3) 学生の感想と写真

学生からのレポートによれば、受講生のほとんどが下市町や中山間地域に関する理解が「深まった」、本授業を「受講してよかった」と回答し、前期受講者の多くが後期も受講することにつながった。とくに奈良高専との合同で行った現地実習（集落点検）は、地域住民の方々から直接お話を伺うことで貴重な体験となったとともに、楽しく地域を学ぶことにつながっている。



集落点検（ムラ資源点検・下市町広橋区）



集落点検データ整理



集落点検参加者集合写真



地域文化資源実習（朴ノ葉寿司作り体験）

4) 授業成果（担当教員からのコメント）

受講生の多くは、奈良県外の過疎地域の出身であり、もともと地域コミュニティの問題への関心が高かった。奈良県南部中山間地域の課題を現地住民の方々から直接うかがうという経験、地域の持つ文化資源を体験を通して見直すという経験によって、学生は奈良を理解するのみならず、地域コミュニティの課題解決のための実践的方法論を習得することができた。とくに、その調査（集落点検）の成果がフォトブックという形に残る成果となり、ご協力いただいた地域に還元することができたことも学生と地域の両方に役立つ授業となったと考えられる。

■ コミュニティ・アクション：地域コミュニティの課題解決に向けた活動実践

1) 授業実施日

- | | | |
|-----|--------|------------------------------|
| 第1回 | 10月5日 | オリエンテーション |
| 第2回 | 10月12日 | 昨年度授業例を通じたイメージづくり |
| 第3回 | 10月19日 | (VD班) 撮影計画、(SC班) 容器パッケージデザイン |
| 第4回 | 10月26日 | (VD班) 撮影計画、(SC班) 容器パッケージデザイン |
| 第5回 | 11月1日 | (VD班) 撮影計画、(SC班) 容器パッケージデザイン |

- 第6回 11月9日 (VD班) 撮影計画、(SC班) 容器パッケージデザイン
 第7回 11月16日 ゲストスピーカー：梶井康行氏（下市町ふるさと復興隊）
 「下市割箸・吉野古木木工品制作」
 第8回 11月18日～19日 第1回現地実習
 第一日：ゲストスピーカー：野口愛氏「ビデオ撮影技法」、下市町内撮影活動
 第二日：柿収穫体験・撮影、援農支援プロジェクト参加者インタビュー
 第9回 12月7日 (VD班) 編集作業 容器制作、(SC班) 柿アイス宣伝素材制作
 第10回 12月14日 (VD班) 編集作業 容器制作、(SC班) 柿アイス宣伝素材制作
 第11回 12月16日～17日 第2回現地実習
 第一日：下市町内撮影活動
 第二日：下市町内撮影活動・吉野古木制作スタジオ（宇陀市）見学
 第12回 12月21日 (VD班) 編集作業 容器制作、(SC班) 柿アイス宣伝素材制作
 第13回 1月18日 (VD班) 編集作業 容器制作、(SC班) 柿アイス宣伝素材制作
 第14回 1月25日 (VD班) 編集作業 容器制作、(SC班) 柿アイス宣伝素材制作

2) 授業の概要

本授業（コミュニティ・アクション）は、前期授業（コミュニティ・リサーチ）に引き続き、地域コミュニティの現状を理解するためのコミュニティ社会学の理論と方法を実践的に学び、それを通して、課題の解決の糸口となるアクション（PRコンテンツ制作や特産品開発、成果イベントなど）の企画・実践の過程を体験的に学ぶことを目的としている。

本授業では、奈良県下市町をフィールドとして、下市町役場地域づくり推進課および奈良県農業研究開発センターの協力を得て、地域おこしにかかわるプロジェクトを行った。受講生は、まず事前課題として、奈良フードフェスティバル「C' festa（シェフェスタ）」あるいは任意の「観光地」（道の駅を含む）のご当地食品について評価レポートを作成した。その後、2グループに分かれて、観光ビデオクリップの作成（VD班）、柿アイスクリームの開発に向けた木製容器開発（SC班）を行った。

担当教員は水垣源太郎（文学部）、佐藤克成（生活環境学部）の2名であり、受講生は9名（文学部5名、生活環境学部3名、留学生1名）であった。

3) 学生の感想や写真

学生からの感想によれば、受講生のほとんどが下市町や奈良に関する理解が「深まった」と回答している。自由記述において目立ったのは、農業等さまざまな体験を伴う地域授業の楽しさである。これにより、前期受講者の多くが後期も受講することにつながった。



撮影法レクチャー（野口愛氏）



現地実習（柿の収穫体験）



現地実習（撮影・住民インタビュー）



割箸制作（榎井氏）



柿アイスクリームの改良（奈良県農業研究開発センター）



ライフストーリー フォトブック等贈呈（前期集落点検成果報告）



4) 授業成果（担当教員からのコメント）

本授業では、ゲストスピーカーから観光ビデオクリップや地域特産品の開発に関する広報素材の開発に関する情報と技法を学び、現地取材に基づいて、それらを活かしたビデオや地域特産品の制作・開発に取り組んだ。昨年度に比べ履修生が少なかったため、学生一人一人が下市町の課題に意識を向け、地域と連動しての活動を実践できていたと考える。

次年度も地域住民の方々から直接学びつつ、地域にも貢献し得る集落点検法や地域特産品開発を中心として本授業を展開したい。

⑤2017年度歴史学実習における活動報告：担当教員 文学部 西谷地 晴美

本年度の歴史学実習は、11月13日（月）～15日（水）の3日間、貸切バスを使って高野山～熊野（本宮、新宮、那智）の現地調査を行った。参加者は、文学部人文社会学科歴史学コース3回生が18名、大学院生が5名、引率教員は、矢島洋一、西村さとみ、田中希生、西谷地の4名で、総勢27名であった。

参加学生は、あらかじめ指定された現地説明の資料を分担作成し、全員分を綴じた資料集を持ち歩きながら、現地調査を行った。現地を見ることで、学生の感性や興味・関心に変化することもしばしばで、現地調査が終了した後、各自が自由に研究レポートを作成した。今回は、現地での実習が、どのように参加者の意識を変化させ、問いにつながっているかについて、参加者が作成したレポートの「はじめに」から、いくつかの事例を紹介する。

「起請文と中世の人々の仏教的宇宙観」

実習に向けて高野山の苜萱堂に関する下調べを担当し、説経節「かるかや」を読んで中世人の神仏に対する考え方が現代人と随分違っていることを知った。今回の実習では残念ながら1日目の高野山で苜萱堂に立ち寄ることはなかったが、女人堂を見たことや、奥の院までの道を歩き、立ち並ぶ墓石群などを見たことは中世人の精神世界を垣間見る体験になった。

「奥之院の近世大名墓について」

歴史学実習初日、我々は高野山奥之院を訪れた。弘法大師が入定したという御廟まで、一の橋から約2キロメートルの参道には、驚くほどの墓石群が立ち並んでいた。なかには戦国大名など高名な歴史上の人物の墓石などがあちこちにあり、立ち止まって手を合わせる人もいた。また、企業墓は造形に富んでおり、目を引くものばかりであった。

墓石は大小さまざまであったが、一番石と呼ばれる崇源院の墓塔が奥之院の墓石群の内では最大の石造物である。崇源院は江戸幕府二代将軍秀忠夫人であり、一番石の高さは約6メートルである。見上げるほどの墓塔は圧巻であったが、それほどの巨岩をいかにして標高約800メートルの高野山まで都合したのだろうか。また、被葬者が中近世の人物であるほど、立派な墓所が築かれているようにも見えた。奥之院の参道で感じた疑問や発見の理解を進めるべく、本稿では近世の大名墓を中心に、その特徴や石材などについて先行研究に基づき概観することを目的とする。

「秀衡桜～熊野と藤原秀衡～」

歴史学実習2日目、熊野古道滝尻王子・熊野古道館へ行った際、気になる新聞記事を見つけた。それは、滝尻王子にも関係する乳岩伝説についての記事であった。この乳岩伝説には奥州藤原氏の藤原秀衡が関わっているのだが、なぜ熊野において平泉の藤原秀衡の伝説が残っているのか、興味を持ったので調べることにした。

「熊野本宮大社と八咫鳥」

熊野は地元から近く、特に熊野本宮大社は毎年初詣で訪れる場所で、身近に感じていた。しかし実習で学問の対象として学んでいく中で、自分は熊野について何も知らなかったのだと気づかされた。そこで今回は熊野本宮大社を中心に熊野、そして八咫鳥について見つめなおしたい。

「熊野速玉大社～伝来する古神宝をめぐって～」

私はこの古神宝類の存在を事前学習で知り、実際に速玉大社で見学して改めて、これだけ大量かつ良質の宝物がどのような意図をもって奉納されたのか疑問を抱いた。時代を越えて受け継がれた神宝を通して、熊野を取り巻く歴史を読み解くことはできないかと考えた。

「阿須賀神社と徐福」

今回の実習で訪れた阿須賀神社には、徐福祠、そして背後に蓬莱山があった。私は、なぜ阿須賀神社に徐福という人物の祠があり、蓬莱山という名の山があるのかが気になったので調べてみた。

「熊野と豊臣家～熊野本宮大社・熊野那智大社・青岸渡寺～」

和歌山県を巡る2泊3日の歴史学実習を通して、私は念願であった熊野三社を参拝することが出来た。そして熊野本宮大社、熊野那智大社の宝物殿を見学した際、豊臣家が寄進したとされる展示品が多く残っていることに気が付いた。熊野那智大社に隣接する青岸渡寺の本堂が、豊臣秀吉により再建されていたことを事前学習で調べていたこともあり、熊野と豊臣家にどのような関わりがあったのか、考察していきたいと思う。

「水と山の熊野～その自然と信仰～」

今回の実習では、11月14日と15日の2日間かけて、熊野三社とその周辺の社寺を訪ねた。実習の2日目にあたる14日はあいにくの悪天候となったが、熊野本宮大社に参詣するころには雨脚も弱まり、山々に囲まれた景色を楽しむことができた。3日目に訪れた神倉神社では、急な石段の先にそびえるゴトビキ岩の雄大さと、熊野灘の穏やかな眺望の対比が印象に残っている。

神道と仏教の融合した聖地として人々の信仰を集めてきた熊野は阿弥陀仏のおわす現世極楽浄土とであるととともに、常世との境の地でもあった。(加藤・1998) 熊野が「聖なる地」として広く人々に信仰されるようになる要因はどこにあるのか。自然信仰・仏教・神道といった信仰と熊野という土地のつながりについて考えてみたい。

「熊野詣～熊野御幸と蟻の熊野詣にみる人々の意識～」

今回の実習では約三日間で高野山・熊野三山を巡った。実際に巡ってみると、ほとんどバスを使いながらも険しい道りを感じることができた。それにも関わらず、どうして人々は盛んに熊野詣を行ってきたのか、また人々を掻き立てた信仰と、その魅力は何であったのかについて、改めて興味深く感じた。歴史上行われてきた熊野詣について調べてみることで、その魅力や熊野に赴いた人々の心情に近づけるのではないだろうか。



高野山 奥の院



熊野本宮大社



神倉神社 ゴトビキ岩

⑥宗教に包まれた都市 天理：担当教員 文学部 内田 忠賢

概要

今年度は、天理駅前商店街や天理教諸施設へのフィールドワークを行い、調査報告書『宗教に包まれた都市 天理』を発行した。天理市は宗教団体名を冠する日本唯一の自治体である（かつては岡山県金光町もあった）。この街には、天理教教会本部の所在地として独特の風景があり、日本を代表する宗教都市の風格がある。宗教と共存する街、天理について、限られた時間だが、学生なりの視点から調査研究を行い、宗教都市に関する理解を深めた。

まず、宗教都市一般や天理の街に関する先行研究を多数精読する中で、視点、論点を整理していった。文献調査、予習を十分終えた段階で、数人のグループをつくり実際に天理取材した。参加者に奈良県内出身者がいないこともあり、この授業で初めて商店街や教会本部に足を踏み入れた者ばかりであった。予備調査では具体的にインテンシブにフィールドワークをする…という趣旨ではなかったが、この街を歩く、見る、聞くだけで驚きの連続だった。駅から予想外に長く伸びるアーケード商店街、そこでは他の街では見かけない業種の店舗が目立ち、至る所に天理教の影響が垣間見ることができた。商店街を抜けると、広大な敷地の真ん中で存在感がある巨大な神殿が聳え、圧倒される。教団本部では、張りつめた空気の中、信者たちが静かに祈りを捧げている。神殿は、信者であろうとなかろうと温かく迎える、まさに生きた宗教の中心だった。

本調査では、飛び込み取材だけでなく、事前にアポイントメントを取り、現場で生活する人々の実感をすくい上げようと試みた。本調査での疑問点は、後日、補足調査を行い、解決するよう努力した。いずれにせよ、驚きと発見に溢れたフィールドワークとなった。



調査報告書と文化メディア学実習での取材風景

参加学生の感想

- こんな不思議な街があると思わなかった。取材を通して新鮮な発見があった。
- 天理高校出身の友人を介して取材した。天理の街や天理教への関心が深まった。
- 一般の商店街とはまったく異なる業種構成にも驚いたが、突然の取材にも温かく応じて下さった商店街の皆さんに感謝したい。

担当教員からのコメント（振り返り）

文学部の専門科目「文化メディア学実習」および「現代民俗論演習」に対応する内容である。

昨年度の生駒市宝山寺門前に続き、今年度は「天理市中心街」をフィールドにした。宗教都市一般、および天理に関する諸研究を参加者で精読した（4,5月）。その後、数名ごとに調査テーマを設定、現地での取材を行い（6月および7月上旬）、報告書を作成した。終始、学生たちはこの街の不思議さに関心を持った。新鮮な視点から数度の調査を重ねた。調査としては不十分な点が認められるが、報告からは驚きと発見の連続であったことが分かる。

1.2.2 就職（企業との関わり）について

（1）就職意識アンケートの実施

入学してからほぼ1年を本学で過ごした1回生を対象に、おもに奈良県内で就職することに対して現時点でどのような考えを持っているかを尋ね、今後の事業展開の参考とするためにアンケート調査を実施した。概要および結果は次のとおりである。

1. 概要

調査名：「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に関するアンケート

調査対象：必修科目である健康運動実習Ⅱ（A）～（F）を受講する1回生509人

調査日：平成30年1月29日から2月2日の間の各科目開講時

調査方法：質問紙調査（集合調査法）・無記名回答

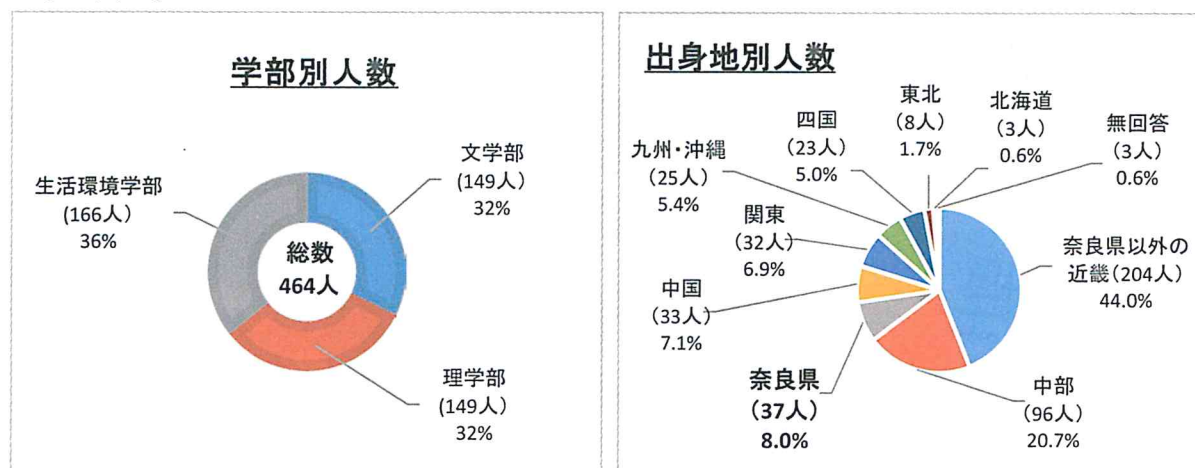
有効回答数 464人

有効回収率 91%

2. 調査結果

ア 全体の構成

学部別の人数は次のとおりで、ほぼ均等に分散している。また、対象者を出身地別に分類した結果もっとも多かったのは奈良県以外の近畿で全体の4割以上を占め、次いで中部、奈良県の順であった。全体に占める奈良県出身者の割合は8%で、他府県出身者の割合が非常に高い。



なお、北海道出身者（3人）と東北出身者（8人）は母数が少ないため、以降の集計ではこの2地域を合わせ「北海道・東北」（11人）として取り扱う。

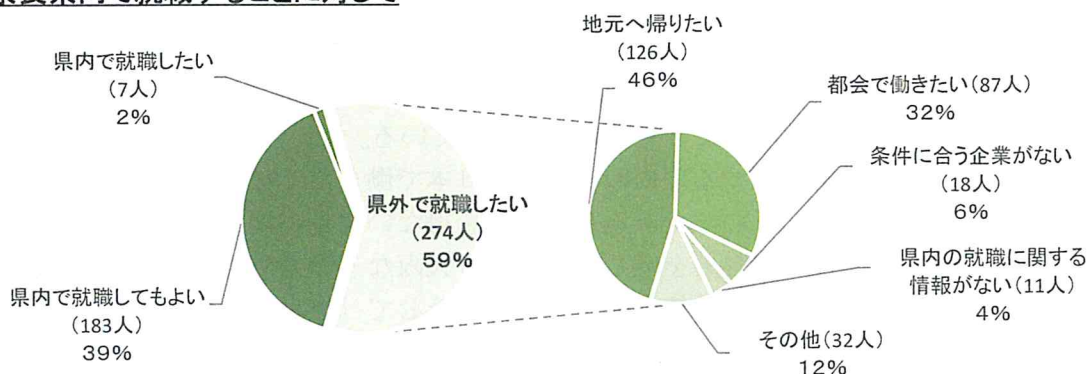
イ 奈良県内で就職することに対する意識

この調査では奈良県内で就職したいという気持ちが現時点でどの程度あるのかを尋ねた。

結果は奈良県内で就職「したい」と積極的な回答をした学生が7人とわずか2%にとどまっている。そこへ奈良県内で就職「してもよい」と答えた者を加えても過半数には届かず、6割近い学生が県外での就職を希望していることがわかった。そして、その理由については半数近くが地元へ帰りたいからと答えている。これは先に示したように全体の9割以上を奈良県以外の地域からの入学者で占めていることも要因として挙げられよう。就職をはじめとした奈良県への定着促進にあたっては、これらの学生に対していかに奈良県への関心と愛着を持たせることができるかが重要であると言える。

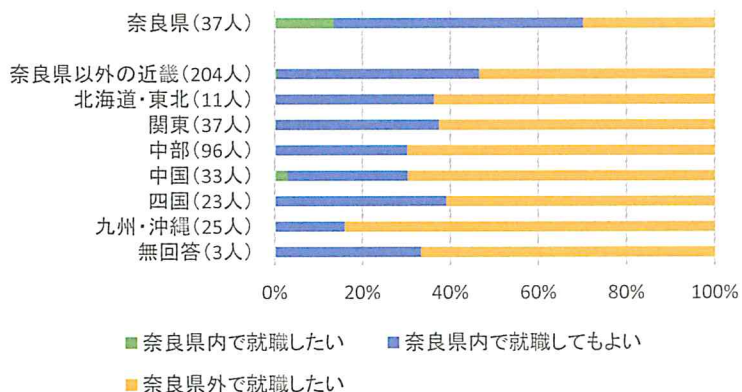
また、数は少ないが奈良県内の就職に関する情報がないことを理由に挙げた 11 人のうち 8 人が近畿圏内の出身者であったことを考えると、さらに適切で効果的な情報提供によって彼女らをはじめ、より多くの学生の眼を奈良県内への就職へと向けさせることもまた可能なのではないかと思われる。

奈良県内で就職することに対して

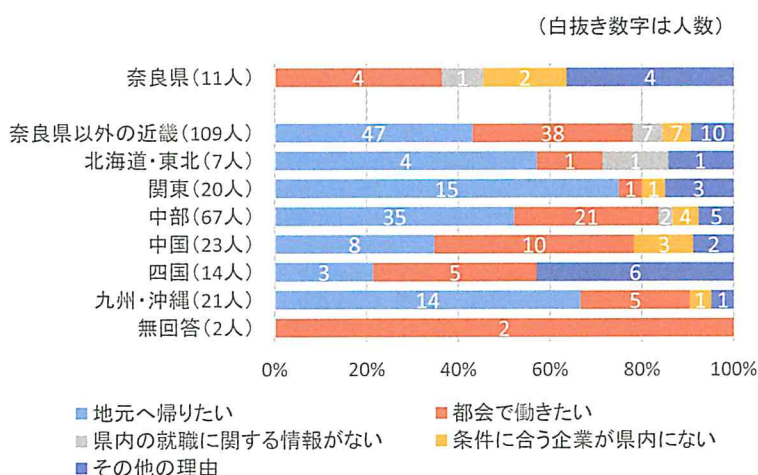


加えて奈良県内への就職意思を出身地域別に分類してみた。その結果は比率として奈良県出身者にやや強い積極性がみられたものの、他の地域に比べ特に高いとまでは言い難い。ただ、九州・沖縄出身者を除くすべての地域で 30%以上が奈良県内で就職してもよいと答えており、彼女らの意識をどう引き寄せるかは県内就職率を今後上昇させるための大きなポイントになるのではないだろうか。

出身地ごとの奈良県内就職への意向



出身地別に見た奈良県外で就職したい理由の割合



一方で、奈良県外で就職したい、つまり奈良県内での就職を希望しない理由では前に挙げた地元への回帰意識のほかにも都会で働きたいという希望も大きな割合を占めており、特に中国地方や四国地方出身者では地元へ帰りたいとの回答を上回る結果となっている。なお関東地方出身者では他の地域に比べ地元へ帰りたいと望む割合が突出しているが、この地域はおおむね首都圏と重なっ

ており、都会で働きたいという希望も同時に満たされている部分が多いものと推測される。

なお、奈良県出身者ではその他の理由を挙げた4人のうち3人が「ずっと奈良での生活だったのでそろそろ奈良から出てみたい」という声に代表されるような、地元からの脱出願望を挙げていたことが目立った。

ウ まとめ

今回の調査を通して、現時点で1回生は卒業後の進路として奈良県内での就職を積極的に志望する意思はそれほど高くないことがわかった。しかし同時に4割近くの学生がまだ選択肢としては排除していないことも明らかになっている。

ただ、県外での就職を希望する理由の中には「日本で働きたくない」、「空港で働きたいけど、奈良に空港がない」といったある意味やむを得ない意見が確かにあるものの、他方では「奈良で働くことに特に魅力を感じない」や「大阪などの方が給料が良いイメージ」といった奈良の企業に対する期待値の低さや無知、そして「奈良は田舎だから」、「奈良は何もない」、「奈良にこのまま住みたいとは思わない」のように奈良そのものに対する魅力を感じていないという声が相当数あったことも事実である。

もともと奈良県は生活の利便性や有名企業数で圧倒的に上回る大阪や京都といった大都市に近接している点がこと就職先の選定にあたっては不利になる側面は否定できず、とりわけ実家や居住地がそうした都心近くにある場合はあえて距離の離れた奈良県へ「出てくる」モチベーションが上がりにくいことも事実だと考えられる。前述したように奈良県内の就職に関する情報を的確かつ効率的に伝えることがまず大切ではあるが、1回生であれば就職を本格的に意識し始めるまでには時間的な余裕があることから、より学生の目線に近いところで奈良そのものへの興味を掻き立て、自身に関わりを持てるような情報や機会も併せて継続的に提供すれば、そこから奈良県に根を下ろそうという気持ちを育み、県内にある企業にももっと目を向けてくれる可能性はまだ大きく秘められていると考えられる。

(2) 就職環境開発

奈良女子大学学生生活課就職係と各学部就職担当教員で構成する就職支援改革部門において、県内就職への意識改革を図るためのセミナー、企業説明会などを企画している。なお、企業トップによる出張講義は、学生が実社会のビジネスを身近に感じ、大学の実践的な人材育成のみならず、県内企業の魅力を知ることにより就職への橋渡しにもなっている。

(3) 奈良県内企業限定パンフレットゾーンの開設・拡充

やまと共創郷育センターでは、学生に奈良県内企業の魅力に触れてもらう機会向上を目指し、キャリアサポートルーム（就職支援室）に「奈良県内企業限定パンフレットゾーン」を開設していたが、より身近に学生に県内企業を知ってもらうことが必要との観点から、当該ゾーンをラウンジに移動した。このゾーンには、県内企業から寄せられた会社案内、募集要項が集められおり、やまと共創郷育センターで随時受け付けしている。県内企業パンフレットゾーンの拡大や奈良県内企業の紹介方法についても今後一層の充実を図り、「あなたとナラ働こう」、「奈良をリードする躍動企業」として、学生と県内企業とのマッチング機能を持たせるよう取り組んでいく予定である。



奈良県内企業限定パンフレットゾーン

(4) インターンシップへの参加

インターンシップは学生にとって、働く姿を見ることで、社会人としての基礎力を養い、地元企業への就職の橋渡しにもなることを踏まえ、本学は、県内 12 大学で構成される奈良県大学連合インターンシップ制度ならびに京滋奈地域人材育成協議会主催の「社風発見インターンシップ」、「地域創造インターンシップ」を積極的に進めた結果、県内企業へのインターンシップ参加者数は、平成 26 年度の 23 名から平成 28 年度は 51 名に増加した。また、滋賀・京都・奈良の 11 大学が参加する社風発見インターンシップにおける参加者も平成 26 年度の 8 名から平成 28 年度は 12 名と着実な成果をあげている

インターンシップへの参加状況

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
目標値	26	28	30	32	35	40
実績値	23	46	51			

①インターンシップに参加した学生の目的や実習での成果について

- ・ホテル業界に興味があり、実際に経験したみたい想いと、インターンシップで他大学の学生と関わり、刺激を受けたいと思い参加した。
- ・社会人として働くとはどういうことかを具体的にイメージするために参加した。
- ・コミュニケーションにおいて大切なことは、話すことだけではなく、必要なことを聞き出すことだと気づいた。

②インターンシップ受入れ先の評価ならびに課題について

- ・大変な作業が多い職種を選んでいるにも関わらず、疲れをみせず、最後まで頑張ってくれました。
- ・素直に取り組み、笑顔を忘れず、とても頑張ってくれました。
- ・初めて働く学生もいたので、こちらが初めて気づかされる点もあった。新しく人を採用する際にも、今後体制を整えなければいけない点も発見できた。
- ・基本的なマナー等社会人になるまでにより勉強を重ねて頑張っていかれるとさらに良いと思います。
- ・進路指導の際にも積極的な周知をお願いします。
- ・どんなことがしたいのか、知りたいのか、事前打ち合わせの時にもう少し話を聞き、前もって伝えたい。
- ・企画などの業務もインターンシップに取り入れたいと考える。
- ・延長希望があれば有給インターンシップも検討いただきたい。



ウーマンライフ新聞社での本学からのインターンシップ参加者の特別制作

<インターンシップ体験例>

フリーペーパーや Web ページに掲載する記事の作成、文字校正、電話対応等を行った。電話対応では、相手の会社名や名前をなかなか聞き取ることができず、苦勞した。自分が作った記事がフリーペーパーに採用されていたのを見るとすごく嬉しかった。実習後半になれば電話も聞き取れるようになり、自分の成長がわかったことも嬉しかった。

会社がどのようにまわっているのか、仕事に人がどういう風に関わっているのかを社会人になる前に知ることが、今回の目標であった。実際に職場を体験でき、それは達成できたと思う。苦手なことも続けることが大事だと気づけこの体験は就活の際の仕事選びの参

考になった。

(5) 平成 29 年度の就職支援活動実績

1) 県内企業 OG との交流会 in ラウンジ～先輩に聞こう！～平成 29 年 7 月 4 日及び 6 日

ラウンジにおいて県内の企業等に就職する先輩(OG)と本学学生との交流会を実施した。交流会には両日あわせて 12 名の OG と 43 名の学生が参加した。交流会では、最初に学長から挨拶があり、引き続き OG の自己紹介が行われた後、各テーブルに分かれて OG と学生達との交流が行われた。交流会は 15 分刻みのローテーションで OG が別のテーブルに移動する形態を取り、出来るだけ多くの学生が OG との交流を図るように工夫した。

最終の予定時間が終了しても、聞けなかったことを聞くため、学生たちはテーブルを離れようとせず、一定の時間を経て司会者がやむなく終了を宣告し、交流会は予定時刻を大幅に超えて終了した。参加してくれた OG は後輩からパワーをもらい、学生たちは OG から貴重な情報を得て、それぞれ満ち足りた雰囲気を残し、会場を後にした。

参加 OG 企業

平成 29 年 7 月 4 日 (火)	平成 29 年 7 月 6 日 (木)
奈良県 奈良市 奈良県警察本部 ㈱南都銀行 南都コンピュータサービス(株) 上六印刷(株)	奈良県 奈良市 ㈱南都銀行 南都コンピュータサービス(株) 上六印刷(株)

<参加者の声>

- ・フリートーク形式で、聞きたいことを自由に聞いて良かったです。
- ・いろいろなお話が聞けて、とても刺激になりました。
- ・とても話しやすい雰囲気で、たくさん質問できて良かったです。
- ・聞いてみたことを聞ける機会となったのでとても良かった。
- ・県内での就職を希望しているので、とても貴重な機会でした。ありがとうございます。
- ・先輩方がとても丁寧に質問内容に答えて下さり、様々な社会人の角度から見る就活、仕事への考え方を教えて下さって、とても参考になりました。ありがとうございました。
- ・どうせなら OG の方全員のお話を聞きたかったです。
- ・とても話しやすい雰囲気でした！是非また開催してほしいです。
- ・文理をある程度わけてあった方がよかったかと思います。
- ・文学部の方の数をふやしていただけると嬉しいです。
- ・全員の OG さんとお話しできるローテーションにしてほしかったです。



県内企業 OG との交流会 in ラウンジ～先輩に聞こう！～の実施の様子

2) 女子大学生ワーク&ライフ EXPO と参加企業との交流会 平成 29 年 10 月 21 日 (土)

本学体育館にて「女子大学生ワーク&ライフ EXPO」(奈良県主催、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学共催)が開催された。女子大学生が就職活動のスタートラインに立つ前に、働く女性のリアルな話を聞くことで働き続けることを含めたライフプランをイメージするもので、本学学生が奈良県に「女子大学生のためのキャリア形成・県内就職支援プロジェクト」として実現したものである。当日はあいにくの天気にも関わらず、県内企業を中心に 25 社、女子大学生 260 名(うち本学生 225 名)が参加した。

新潮社出版部部長の中瀬ゆかりさん(本学出身者)による記念講演や、出展企業の女性社員らによる仕事の中身や働き方などに関する話に熱心に耳を傾けていた。

さらに、当日は 17 時からラウンジにて本学主催による「県内企業と奈良女子大学との交流会」が開催された。「女子大学生ワーク&ライフ EXPO」の参加企業等から 23 社 50 名(うち本学 OG8 名)、教職員 11 名、学生 24 名が出席し、本学の教育研究活動等を紹介するほか、就職や共同研究・共同開発等に関する情報交換を行い、県内企業との交流・親睦を深めることができた。

NO.	出展企業等名	交流会参加
1	奈良県庁	○
2	奈良県警察本部	○
3	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	○
4	株式会社JTB西日本	○
5	イオンリテール株式会社	—
6	スターバックスコーヒージャパン株式会社	○
7	株式会社レオパレス21	○
8	社会福祉法人正和会	○
9	奈良交通株式会社	○
10	市民生活協同組合ならコープ	○
11	奈良ダイハツ株式会社	○
12	大和信用金庫	○
13	株式会社南都銀行	○
14	株式会社井上天極堂	○
15	三笠産業株式会社	○
16	西垣靴下株式会社	○
17	梅乃宿酒造株式会社	○
18	株式会社イベント21	○
19	株式会社山晃住宅	○
20	株式会社明新社	○
21	佐藤薬品工業株式会社	—
22	株式会社JITSUGYO	○
23	クオリカプス株式会社	○
24	ディライト株式会社	○
25	社会福祉法人青葉仁会	○

<参加者の声>

- ・各企業の話で、女性の管理職の割合がまだまだ低いことが分かったし、それを改善するための工夫についても知ることができました。
- ・パネルトークを聞かせていただいて様々な企業さんが奈良にあることを再認識しました。女性の管理職の割合は仕事それぞれによるのかも知れないけれど、頑張っていられることが分かったので大きな収穫だったなと思いました。
- ・就活で不安に思っていた部分をなくせ、さらに奈良の企業の頑張りを気軽に聞ける良い

イベントだと感じました。奈良県の企業が奈良の現状を課題と感じ、取り組んでいること、取り組もうとしていることを聞くことのできる良い経験ができたと思います。働く女性として輝けるような人になりたいと思えるようなイベントでした。企業テーブルに奈良女卒の先輩方もおられたのも身近に感じられて良かったです。私は奈良で働きたいと考えているので、とても楽しかったです。

- パネルトークを見た後、気になった企業のブースによってお話を聞かせていただきました。パネルトークでは1分間で企業の魅力を伝えるのは難しそうでしたが、簡潔に説明を受けることで詳しく知りたいと興味を持つことができました。今まで知らなかった企業でも、創業100年を超えていたり、大きな活躍をしていたりと魅力的な企業が集まるイベントに参加でき、少しでも自分のキャリアについて考える機会を得られて良かったです。企業ブースでは少人数でお話をしましたが、私服だからか、他の就活イベントと違って自分のペースで和やかに話をする事ができて良かったです。
- 企業テーブルでは企業の内容、就職先の選び方について詳しく聞くことができた。話を聞いてみたら思っていたのと違ったり、企業で働くことのデメリットも聞いたりして、今までとは違ったイメージで将来を見ることができ良い経験だったと思う。
- リクナビなどのイベントと違い、企業の方とより近い距離で話せてよかった。企業の方と話す中で、「他社との差別化」というワードを聞いて、これからの就活で大事にしていきたいと思った。他にも聞きたい企業があったけど時間が足りなかった。



女子大学生ワーク&ライフ EXPO（上）参加企業との交流会の開催の様子（下）

3) 県内自治体の魅力を知るセミナーの開催 平成 29 年 12 月 19 日 (火)

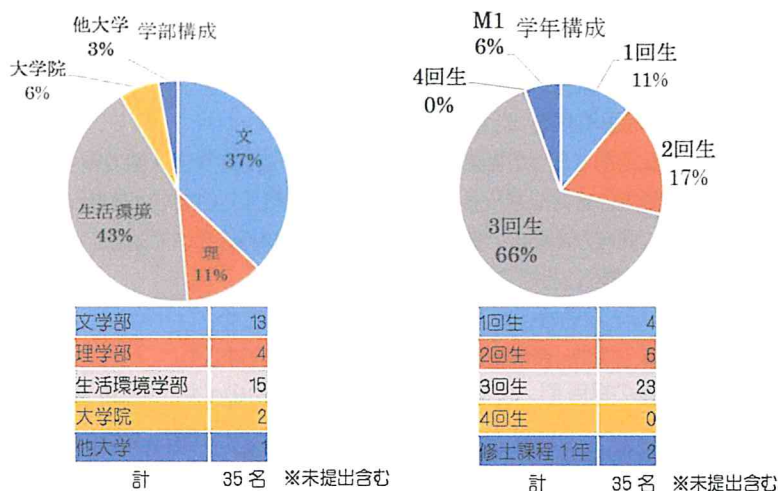
本学大学会館大集会室にて「県内自治体の魅力を聞くセミナー」を開催した。これは 10 月に開催された「女子大学生ワーク&ライフ EXPO」の地方公務員編として企画したもので、本学 OG の就職実績がある県内自治体等へ協力を依頼したところ、9 団体にご参加いただいた。本学からは 3 回生を中心に 1、2 回生も含めた 35 名が出席した。最初に各団体が紹介するそれぞれの特色や魅力について耳を傾けたあと個別のブースを訪問し、担当の職員のみなさんから直接より詳しい説明を受けた。個別ブースにおいては、総務人事担当者ならびに本学 OG が同席し、仕事のやりがいや心構えのほか本音の打ち明け話も飛び出すなど、後輩たちにできるだけ良いアドバイスを贈ろうという先輩 OG の熱い気持ちに触れることで和やかな雰囲気の中多くの有益な情報を得ることができた。セミナー終了後もなおしばらく会場に残って親しく話す姿があちこちで見られ、県内自治体の魅力をじっくりと聞くことができ、単なる情報収集だけではなくお互いのつながりを深められる濃密な時間となった。

参加団体 (9 団体)	
奈良県警察本部	桜井市
奈良市	生駒市
大和郡山市	宇陀市
天理市	斑鳩町
橿原市	



県内自治体の魅力を知るセミナーの様子

県内自治体の魅力を聞くセミナーアンケート 集計結果 (回答者数:32名(参加者35名))



1.本日のセミナーはいかがでしたか？

①開催場所

【ア.大変良かった…23 イ.良かった…8 ウ.あまり良くなかった…0 エ.良くなかった…0 記入なし…1】

②開催時期

【ア.大変良かった…15 イ.良かった…16 ウ.あまり良くなかった…0 エ.良くなかった…0 記入なし…1】

③自治体だけを集めたことについて

【ア.大変良かった…25 イ.良かった…6 ウ.あまり良くなかった…0 エ.良くなかった…0 記入なし…1】

④各自治体の話を聞く時間

【ア.ちょうど良かった…18 イ.短かった…11 ウ.長かった…0 記入なし…3】

⑤その他何かありましたらご自由にどうぞ

- ・気軽に参加できて良い機会になった。
- ・くじ引きがよかったです。
- ・お話を聞けなかった自治体さんも含め業務案内パンフレットがほしかったです。
- ・セミナーがどういう流れで行われるのか先に知っておいたらもっとよかったですと思いました。最初いきなり質問ありますか？から始まったので少しびっくりしたのと、準備が何もできていなかったのが申し訳なかったです…。
- ・開催時期をもう少し早めてほしいなと思いました。11月下旬～12月上旬。
- ・1年生だけ聞きやすかったです。
- ・OGさんがいたことが大変良かったです。
- ・あと5分長い方がよかったです。

2.どのようにしてこのセミナーを知りましたか？(重複回答あり)

ア.先生の紹介…3 イ.友人の紹介…3 ウ.学内のポスター…15 エ.学生宛電子メール…2
オ.やまと共創郷育センターの掲示板…0 カ.その他(授業、チラシ、ピラ配り、橿原市のHP)

2017.12.19

3.印象に残った自治体はありますか？(複数可)

- ・大和郡山市:話がしやすかったから。OGさんと年が近かったから。
- ・生駒市:他県からの就職ということで、そういった選択をされた理由が気になった。
- ・桜井市
- ・奈良市:OGさんのお話をたくさん伺えたから。
- ・橿原市:町づくりが画期的だったから。
- ・奈良県警察本部:初めて知った職業で、集まった人数がたまたま少人数で多く質問できたから。
- ・生駒市:学生の疑問に答えながら様々な業務について教えていただけたから。
- ・橿原市:文化財に興味があるので観光や文化財関係の業務について知ることができたから。
- ・宇陀市:1人で話を聞くことができたため。
- ・桜井市:OGの方が志望動機等を丁寧に話してくださったため。
- ・奈良県警察本部、生駒市、奈良市:雰囲気良くて夢がありました。
- ・生駒市:人物重視の採用をしていること、今までの市役所のイメージとは違う仕事の様子を知ったため。
- ・大和郡山市、桜井市:職員の方の話しやすさがめだっていた。
- ・桜井市:けっこうふみこんだところまで聞けたから。
- ・大和郡山市:職員の方々が面白い方でした。
- ・奈良県警察本部:警察行政職について知らないことが多く、とても勉強になったから。
- ・奈良県警察本部:こういう選択肢もありだと本気で思った。
- ・奈良県警察本部:警察官に興味があるので、お話が聞いて良かったです。
- ・天理市
- ・斑鳩町、橿原市、大和郡山市、奈良市:話しやすい雰囲気を作ってくださったため。
- ・大和郡山市、橿原市、桜井市:詳しく突っこんだ話をきかせていただけたので。
- ・天理市、橿原市:どこの方もそうですが、担当の方がとても楽しそうでした。
- ・大和郡山市、生駒市、奈良県警察本部:お話されている方々の雰囲気がとてもよかったです。
- ・奈良市、大和郡山市、生駒市、奈良県警察本部
- ・橿原市:地元だから見える良さ、悪さなど様々な視点で見つめ直す大切さに気付けた。
- ・斑鳩町:若手の職員の方がとても気さくに話して下さったり、民間との違いを経験を交えてお話しして下さったので、とても勉強になりました。
- ・大和郡山市:リニアと新庁舎の話が印象に残りました。
- ・生駒市:採用について色々教えてくれた。生駒の魅力を知ることができた。

4.今後やってほしい、あったらいいなと思う説明会・セミナーがあれば教えてください。

- ・県庁など他の公務員セミナー
- ・今回は話を聞くことができない自治体さんもあったので、全自治体さんのお話を少しずつ聞くことができる機会もあれば良いなと思いました。
- ・公務員の技術職、専門職の説明会。
- ・今年公務員に内定をもらった先輩(院生さんや学部4回生)との座談会
- ・もっと自治体の説明会をふやしていただきたいです！すごくよかったです！
- ・気軽にお話を聞ける良い機会でした。ありがとうございました。

以上

1.2.3 成果の社会的還元（地域貢献）について

(1) 野迫川村奈良女塾

奈良女子大学は、学習塾等の学校以外の教育サービスを受受できない野迫川村の小中学生に対して本学学生が同村に出向き、学習指導やレクリエーション活動を「奈良女塾」として実施している。



発行 発行 第3種郵便物認可

野迫川塾 村越え広がり

奈良女子大生、小中学生の勉強支援

野迫川村で、奈良女子大生の小中学生に勉強を教える「野迫川塾」に
取り組んでいる。この試みが県南部・東部地域で学生が学習支援をする県の
事業につながった。

生活環境学部の中山徹教授（都市計画学）とゼミ生が企画した。2011年の紀伊半島大水害で村が被害を受けた後、教育分野で地域の復興に貢献できると考え、昨春に国の助成金を受けて開講した。

国勢調査によると村の人口は1985年の1213人から減り続け、2015年は449人と県内最少。村内に野迫川小と野迫川中があり、小学生7人と中学生8人が通う。4回生の黒部亜美さん（23）は「進学が必ずしも良いこととは言えないけど、選抜校を広げるきっかけになればうれしいです」と話す。

8月末、今夏の4回目の開催に小中学生10人が集まった。野迫川中の旧校舎の教室で、子供たちが問題集や夏休みの宿題に取り

組んだ。子供たちの学校生活の悩みを聞いたり、大将来の夢を語ったりもした。

中学3年で級生の坂手七斗妃さん（15）は高校進学を機に村を出るつもりだ。親元を離れて寂しく下宿で生活する。「高校は部活も色々あるし、色んな人がいて、通っただけ楽しいって聞いてます。寂しさを覚えるが、期待も膨らむ。

た。

塾の狙いは勉強だけではない。小学4年の中迫美紗希さん（10）は「もっと友達と遊びたい。塾生の小学生って私しかいなくて、友達の家までバスで30分かかんなくて」と教えてくれた。子供たちの交通手段は、1日2便の村営バスか保護者の送迎頼りだ。

塾では、みんなで集まって遊ぶ機会も必要だと考え、午後をレクリエーションの時間に充てる。お菓子作り、映画鑑賞、鬼ごっこ……。4回生の青木佑里那さん（23）は「昔、大学生のお姉ちゃんたち来たなああって、大人になって思い出してももらえるような経験になれば」と話す。

他の地域にも広げられないかと昨年、県の「県内大学生が創る奈良の未来事業」に応募。優秀賞に選ばれ、今年度から事業化された。ボランティア登録して研修を受けた県内の大学生が8、9月から、大淀町、吉野町、山添村、下市町で小中学生に勉強を教えている。

（加治肇人）

県が事業化、学生が南・東部へ

奈良女塾の紹介記事

(2) 町立下市小学校、中学校での学習支援 平成 29 年 9 月 11 日から 13 日まで

下市小学校・下市中学校にて奈良女子大学生による学習支援事業が開催された。9 月 12 日は大雨により休校となったため 9 月 11 日と 13 日の 2 日間だけとなったが、本学学生 9 名が参加し、下市町の小中学生への学習支援を通じた交流を深めることができた。

両日とも午前中は、下市小学校 5、6 年生の社会科のグループ学習において、パソコンや辞書等を利用した調べ方、調べ発表の伝え方などにアドバイスし、児童の学習を支援した。午後からは、下市中学校に移動して、留学生 (2 名) が英語で母国紹介をしたのち、生徒からの質問を受けて国際理解を深めた。また、日本人学生 (7 名) は中学生へのキャリア教育の一環として将来の進路決定に向けたグループワークを行い、先輩として苦労話や将来の夢について生徒とディスカッション、アドバイスを行った。

参加学生からは、「小学生に歴史学習のお手伝いできて楽しかった」、「小中学生に判り易く伝えることの難しさが分かり良い経験ができた」、「実際に小中学生の指導をされている先生のすごさに驚いた」といった他、「初めて下市町を訪問した。都会では得られない下市町の良さを知ることができた」といった感想があった。



町立下市小学校・中学校での学習支援の様子

(3) 県南部の学習支援と県内大学生が創る奈良の未来事業について

野迫川村で実施している長期休暇を利用した小中学生への学習塾の取組は、奈良県が主催する平成 28 年度「県内大学生が創る奈良の未来事業」に「女子大塾～女子大生による県南部学習支援～」として政策提案して優秀賞に選ばれた。平成 29 年度に県教育委員会の「県内大学生による県南部教育支援事業」として下市町、大淀町、吉野町、山添村で実施されることとなった。目的は、奈良県南部・東部地域に県内大学生を派遣することで、小・中学生が地域格差を受けずに学習支援をはじめ様々な教育活動の機会を得ることができるようにする。また、日頃、高校生や大学生に接する機会のない小・中学生が大学生とともに活動することで新しい体験を生み、将来の進路を考えるための一助とするとともに、過疎地域における今後の教育を考える機会を創出するものである。

採択後の事業の企画・立案・実施に本学学生が協力しており、地方創生に寄与する人材の育成が県の財政支援を受ける形で進捗している。また、県南部教育支援事業には、県内の他大学学生も参加しておりその波及効果は極めて大きい。

奈良県では、平成 24 年度から「県内大学生が創る奈良の未来事業」を実施している。この事業は、多様化・複雑化する県政の様々な課題を解決するため、県内の大学等に在籍する学生から政策提案を募集し、応募された政策提案のうち、公開コンペ方式により選ばれた提案を事業化し、学生にも参加いただいて事業を実施するもので、本学からも積極的に応募・受賞している。

参考 平成 27 年度以降の政策提案受賞一覧

提案年度	賞	政策提案名	提案者
平成 29 年度	最優秀賞	学んで守ろう僕らの森 －中高大連携森林学習プロジェクト	近畿大学
	優秀賞	小学生を対象としたパラリンピック教育プロジェクト	奈良教育大学
		留学生による奈良の旧正月フェスティバル	奈良女子大学
平成 28 年度	最優秀賞	農地の窓口	近畿大学
	優秀賞	Sight Feelinng NARA 感じてみつけ！ あなたの奈良 魅力再発見プロジェクト	奈良女子大学
		女子大塾 ～女子大生による県南部学習支援～	奈良女子大学
	-	女子大学生のためのキャリア形成プロジェクト	奈良女子大学
平成 27 年度	最優秀賞	緊急課題！ 奈良の将来の医療をつくる多職種医療学生の集い	奈良県立医科大学
		女子大生ハンティングサークル（狩りガール）	奈良女子大学
	優秀賞	不登校の子供たちに大学生ができること ～大学間の垣根を越えて～	帝塚山大学
		かえろうら！十津川 ～空き家の DIY 回収&活用プロジェクト～	奈良女子大学

(4)「賃貸のマサキ×奈良女子大学のコラボルーム」について

本学のならまちセミナーハウスのオーナーでもある正木商事(株)と生活環境学部住環境学科の学生が、地元企業と大学の協働による地域活性化を目指して老朽化した賃貸アパート(1K)のリフォームに取り組んだ。女子大生が住みたくする部屋を目指して検討を重ね、学生の生活体験から生まれた様々な暮らしの工夫が盛り込まれた部屋が完成した。学生の参画による住環境改善の提案が実現し、壁紙を張り替えるリフォームとは異なる付加価値が創出されている。

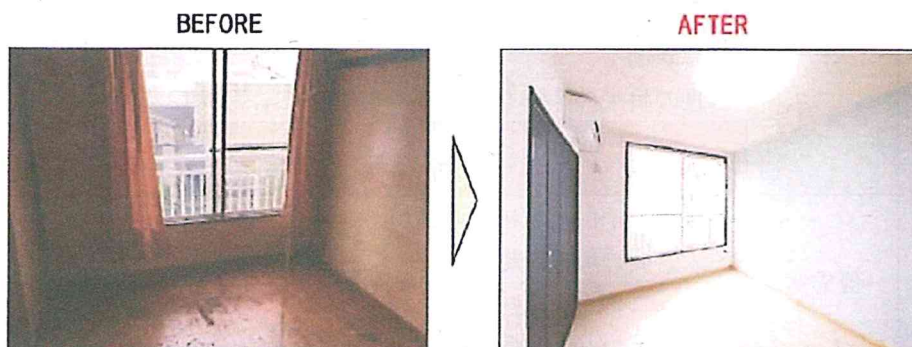
「賃貸のマサキ×奈良女子大学のコラボルームが入居者募集開始！」

賃貸のマサキ(正木商事株式会社、本社：奈良市三条町)は、奈良女子大学 住環境学科とコラボしたリノベーション物件「ハイツてんがい」の入居者募集を開始した。“奈良県の地域創生”に向けて新たな取り組みを実施している正木商事は、若い世代にも“住んでよし”な奈良県を実感してもらうべく、奈良女子大の学生と、ある物件のリノベーションを企画した。



賃貸のマサキと奈良女子大生の打合せの様子

本物件は奈良県奈良市手貝町に所在する、築27年の築古物件「ハイツてんがい」の一室。キャンパスからも近いこの1Kのお部屋に、女子大生目線のニーズを反映させることで、結果として築古物件は「オトナ可愛い」お部屋へ変貌を遂げた。女子大生のニーズ反映に向けては、奈良女子大生とデザインコンペを実施。住環境学科の学生たちで構成された3チームが、それぞれのコンセプトに基づいてデザイン案を発表し、「実用性を兼ね備えたオトナ可愛い」というデザインコンセプトを決定した。



リノベーション前後のお部屋の様子

このコンセプトの実現に向けては、“収納や備え付けの充実”、“様々な入居者の嗜好に合う”、“しつこくない可愛さ”にこだわった。結果として、入居者自身が自由に使い方を換えられる壁一面の棚を設置し、床には落ち着いた明るさのフローリング、そして壁面には北歐風ブルーのアクセントクロスを採用し、“飽きのこない、長く住める”お部屋を実現した。



作業の様子



完成した棚

また、この壁一面の棚の作成と設置作業は、女子大生自身が行った。住環境学科の女子大生たちにとっても、ここまで多くの工程を経た作業は初めてであり、実際の作業はもとより、棚の材質・寸法・コスト・作成方法などの計画立案に苦戦した。しかしながら、女子大生たちは日々学んだ知識と経験で試行錯誤を重ね、お部屋の雰囲気に合うシンプルな棚を完成させた。

過去にも賃貸のマサキは学生とのコラボレーションを実施しており、今後も継続的にこのような企画を実施し、“住んでよし”の実現を通して、奈良県の地域創生を目指している。

【「ハイツてんがい」物件概要】

- 所在：奈良県奈良市手貝
- 交通：近鉄奈良線/近鉄奈良駅 徒歩 19 分
- 構造：軽量鉄骨 2 階建
- 築年月：1991 年 7 月
- 総戸数：14 戸

【今回募集物件】

- 間取り：1K 洋 6 (19.25 平米)
- 賃料：40,000 円
- 管理費・共益費：無
- 礼金：100,000 円
- 階数：1 階
- 入居：即

住環境学科の学生は、設計演習という授業で建築図面と模型を製作しているが、自分たちの提案が実現する機会はない。今回のプロジェクトで、自身の生活体験を活かして提案ができたこと、壁紙の選定、棚の製作など実際のものづくりに関わったこと、現実には予算の壁があること、自分たちの提案が完成した空間を体験できたことは、学生にとって得難い貴重な学びの機会となった。当事者だからこそその細やかな提案には正木商事さんにも喜んでいただき、地元企業にも学生にも嬉しい協働ができた。

(5) 奈良経済同友会との交流・懇談会

奈良女子大学社会連携センターでは、地元企業との連携をさらに強化するため、平成 18 年度から奈良経済同友会との交流・懇親会を開催してきた。

平成 29 年度については、下記の通り実施した。

日 時 平成 30 年 1 月 15 日 (月) 15 : 00 ~ 18 : 50

場 所 奈良女子大学理学部 G 棟 2 階 G201 教室

参加者数 71 名 (同友会 48 名、本学 23 名)

< 日程 >

15 : 00 開会 開会挨拶 奈良経済同友会代表幹事 山本 太治氏
奈良女子大学長 今岡 春樹

15 : 10 講演

「“吸収性” シルク縫合糸の開発」

奈良女子大学 研究院生活環境科学系 助教 橋本 朋子

「安心安全な IoT 社会を構築する LCCA ネットワーク構想」

奈良女子大学 研究院生活環境科学系 教授 松本 尚

「特定金属イオンに対する蛍光センサーの設計

～高選択的プローブ開発のための分子技術～

奈良女子大学 研究院自然科学系 教授 三方 裕司

「やわらか食 “そふまる” の誕生について」

名阪食品株式会社 代表取締役社長 清水 克能氏



平成 29 年度奈良経済同友会と奈良女子大学との交流・懇談会の様子

(6) 県内企業からの技術相談への対応について

COC+参加企業（地元金融機関ならびに地元企業）との連携を深めるとともに、本学が保有する研究シーズへの地元企業への還元、共同研究等による地元企業の課題解決や新たな社会的価値の創造に向けて、平成 29 年度は、県内 4 社と共同開発や共同研究の相談を実施した。中には学生のアイデアを生かした商品の開発を目的とするものもあり、産学金連携に加え、学生をも巻き込んだ新規事業への広まりを見せている。

1.2.4 今後の取り組みについて（平成30年度の活動予定）

地域志向科目の受講により、多くの学生が地域に魅力を感じ地域定着に対する意識も変化しつつある。こうした地域を志向する意識変化を実際に地域定着にどう結実させていくかが今後の課題となっている。

平成31年度の数値目標達成に向けて、教育プログラムのさらなる改善・改革を図りながら、学生の地域創生への意識を高める。同時に県内企業の営業所や工場見学など、出会い・交流の機会を定期的かつ積極的に設けることによって、地元への就職意識を高めるとともに、具体的な職種が定まった学生には、長期インターンシップの手配やコーディネーターが帯同した企業訪問を行い、地元定着・就職内定へと導くよう取り組んでいく予定である。

（1）教育支援活動

1）地域志向科目履修率の向上

『地域社会の抱える課題を見つけ働き方を考える』といったより実践的な人材育成を目的とした「なら学+（プラス）」を引き続き開講するほか、地域志向科目履修率のさらなる向上を目指し、新たに「『奈良』女子大学入門」の開講を予定している。

奈良で学び、生活することになった本学学生に向けて、安全なキャンパスライフを送るための基本的な知識だけでなく、奈良への理解を深め、地方創生への関心並びに県内就職への意識を高めるための内容としている。

同時に、地域志向科目の質的向上を目指すため、授業評価アンケート等に基づいた授業内容の見直しを実施する。

2）地方創生にかかる教育セミナーの実施

県内企業経営トップによる実践的なセミナーの開催により、学生と企業の相互理解を深める。また、県内女性起業家、県内自治体、企業、地域活性化に向けて活動するNPO団体にて活躍している女性等による教育セミナーを実施し、地域が必要としている人材養成教育、女性キャリア教育を実施する。

（2）就職支援活動

1）県内インターンシップの拡充

インターンシップは学生にとって、働く姿を見ることで、社会人としての基礎力を養い、地元企業への就職の橋渡しにもなることから、学生・県内企業双方にメリットのあるインターンシップのあり方を探りながら、COC+事業参加自治体、参加企業との協力のもと県内企業様向けインターンシップの拡充を行う。

2）県内企業見学会の実施・充実

昨年度に引き続き、県内企業の魅力や知識を学生に知ってもらうためバス等による県内企業見学会を予定する。学生に地域産業・地域経済に対する理解、地元企業の魅力を深めさせるとともに、学生と県内企業との距離を高めることを目的としている。また、奈良県内企業への就職を視野に入れている学生を帯同した会社（企業）訪問を活性化させる。

3）県内企業限定魅力発見セミナーの開催整備

学内にて県内企業、県内自治体に限定した会社説明会（セミナー）を複数回開催する予定である。

自社PRしていただくプレゼンテーションも実施し、学生の地元定着支援を進める。